

2017福島視察交流活動参加者アンケート 集計

Q1.今回の研修に参加してのご感想をお聞かせ下さい。

大変よかった 10名 ・ よかった 4名 ・ あまりよくなかった 0名 ・ よくなかった 0名

○特に印象に残った事柄・気づき等あればお聞かせ下さい。

- ・ ひめかちゃんのハンカチのお話。富岡町の公園で見た、震災にあったパトカー、福島第一原発周辺のバリケード。
- ・ 帰還困難区域から解除された地域に、住民の方が帰って来れない現実があるということ。
- ・ 国の復興施策は不十分である。
- ・ 自分たちの大切な故郷を取り戻すべく、前向きに活動している福島の人々の姿が大変印象的だった。
- ・ 福島だけの苦しみにしてはいけない。国全体がこの現状を教訓にして今後もエネルギー問題、補償問題について何よりも優先的に取り組むべきだと思った。
- ・ 土湯地熱エネルギーの視察
- ・ 震災から6年が経過しましたが、福島市内でも除染廃棄物が緑のシートが被ったままでいまだに復興とは程遠いと感じました。ニュース等ではあまり取り上げられることが無くなった福島や原子力発電所の現状とそれらにまつわる様々な問題点について福島県連佐藤専務のお話や資料等から知ることが出来ました。また、津波沿岸部走行で、放射線量計の数値が原発に近づくとつれ上り、「人」がいない街並み・防潮堤などは佐藤専務の震災ネーミング「東日本震災・津波・原発事故」そのものと実感しました。
交流会の場でもお話をさせていただきましたが、組合員の受け止めも「商品を買うことで復興支援に貢献したい」「安全とわかりつつも子どもには福島県産のものは与えたくない」といった2通りあります。今回の視察交流参加で見て聴いたことをそれぞれの立場に立っての発信が自分たちにできることではないかと感じました。
- ・ JAふくしま未来・土湯地熱エネルギー・小名浜魚市場視察させていただいたところ全てコツコツと一步一步丁寧に取り組んでおられる姿勢に感銘を受けました。
- ・ 「除染廃棄物」を埋め込んだコンテナバックが、仮置き場に山と積まれていた。地震が、無くなる事はないし、原発は日本中にある（新潟は柏崎に）人ごとではなく自分の周囲に同じ様な事が起こるかも知れない。そうした意識の共有こそ風化しない為に必要だと思います。
- ・ 福島県連の佐藤専務理事より豊富な資料に基づき、わかりやすく丁寧に、そして具体的な説明により、福島の実状を詳しく知ることができた。
- ・ 車窓を通して、見た原発付近の町並みが一番の印象に残った。普通の日常が一瞬で無くなる怖さ。自分の家なのに、庭なのにどうにもならない。自分が作った田んぼ、作物もどうすることもできず、荒れ野原と化してしまう状況。自分の家に柵を張られた状況。現地に行き、自分の目で見て初めて怖さを感じた。
- ・ 6年半たって報道も減り、普段の暮らしの中では被災地を意識する機会が減ってきています。しかし、今回の視察全体を通して、本当の意味での復興にはまだまだ程遠い現状であることを、心底、実感しました。特に原発被害については、知らされていないことが多いと感じています。これからも生協の中でできることを

考えていきます。

- 福島第一原発から離れている福島市でも未だに除染した廃棄物が処理できず、住宅の至る所に緑のシートで覆われたフレコンバッグが置いてあり、それが日常の風景となっているのに驚きました。まだまだ復興が進んでいない状況がなんだなと実感しました。
- 2日間に亘り佐藤専務理事から、資料に則り、詳細な説明に預かり、ありがたかった。
- 「行って見てくる」ことの重要性

Q2. 「JAふくしま未来」の視察で、印象に残った事柄・気づき等あればお聞かせ下さい。

- 万全の検査をしている事を知り、福島の方々の苦勞、努力がとてもよく伝わってきました。絶対に安心安全なものを出荷するという想いに感動しました。
- 農産物の放射線量チェックは厳しく行われており、私たちは安心して口にすることができます。また、そのことを学んだ私たちが、それを広めていくことが大切である。米の全量全袋検査では、自家消費米もすべて検査しているという徹底ぶりに感心した。
- 農産物やコメの全量全袋検査については震災当時、放射性物質を測る機械も正しい知識も、ほとんどない中から今日に至るまでの6年半、大変なご苦勞をされてきたということを目の当たりにし、心が痛んだ。本来はやらなくていい勞力。市の職員さんが「福島の米、農産物が今一番安全だ。」と言っていたのが印象的だった。このご苦勞、努力に応えたいと思った。
- 米の全量全袋検査の視察で、実際自分も検査の体験や話を聞いて良かった。これだけ検査をしても福島の米は買いたたかれる現実があること。
- JAふくしま未来では、シンチレーション検出器46台　ゲルマニウム半導体検出器1台で400検体/日、2,000～2,500検体/月、30,000検体/年の検査を実施。全品目全戸出荷前検査を原則として放射能検査を実施し、平成28年度は99.7%が不検出で一部川俣町のゆずや山菜で検出され出荷制限。土壌からの吸収抑制方法として、カリウムを入れることで先にカリウムを吸収させてセシウムを吸収しないようにしていたり、この間の研究で品目の吸収率が違うことがわかってきていて農地の状況に応じて生産する品目を変えているとのことでした。（ちなみに、キャベツは吸収しにくいそうです）
- ㈱帝北ロジスティクス西物流センター：福島市における米の全量全袋検査事業の概要
市域で生産される全ての玄米（30kg袋）の自家消費・縁故米も含み、ベルトコンベア式検査機6台（キャンベラ製）を使い28万袋/年を検査している。60Bq/kgを超過した場合は県がゲルマニウム半導体検出器で詳細検査を実施し、平成26年以降100Bq以上は0とのこと。検査結果は、県のふくしまの恵み安全対策協議会ホームページで米袋に貼られた検査済証二次元バーコードを読み取り閲覧できるようになっている。改めて福島の農畜産物は、たくさんの対策・検査を経て販売されていることを確認できました。自分も安心して購入したいと思ったし、役職員・組合員へも伝えていきたいと思います。
- 放射線モニタリングで正しい情報提供をすることで誰にでも、安全、安心の判断が明確にできる骨の折れる作業だが、今の福島には必要不可欠な取り組みだと言わざるを得ません。根気よく頑張っただけです。
- H23原発時81.8%が、H29は99.7%という農産物放射性物質検査の結果数値より安全性が証明され1日400個の検査、年間H27まで3万件となるという、機器46台という検査体制のモニタリング。果実、桃・りんご・梨・トマト・きゅうりに至っては2013年から100

- %であり安全性の確保には農家さんの努力が無くては、出来ないと思った。
- 米の全袋（全量）検査をおこなうことで、福島産の米がどこよりも安全だと認識できた。農作物についても日々の検査から、安全性の確保ができていたことの再認識ができた。以前は全品目1kgの検体だったが、農作物によっては100gで検査できると聞き、生産者（農家）の苦労も半減できてよかった。
 - 米の全量全袋検査の実施には驚いた。福島産の作物は安全であるといわれても、いざ購入には戸惑いを感じていた。風評被害もあり、私のように思っている人々もこの検査体制を見学すれば福島産はどこよりも安全・安心であると感じると思う。また、30キ口の米も容易に持ち上げる機械もすばらしい。
 - 米の全量全袋検査は、震災後、二度ほど視察したことがありますが、これだけ丁寧な検査がいまだ必要なことについては、本当に残念な気持ちです。現地で質問した際に、県はあと1～2年は続けるつもりであると聞きました。徐々にサンプリング検査に切り替えること、福島のお米は安全であることをもっと周知させ、県外消費者も意識を変えることが必要だと思いました。
 - 農作物の検査や米の全量検査の現場を見て、莫大な作業を検査員が黙々と丁寧に行っている光景が印象的でした。震災事故がなければこんな手間はないかと思うといたたまれなくなりました。
 - 放射能被害の深刻さと、農作物の検査体制、特に米の全量検査には、生産者の生活を守る意気込みを感じた。福島産の生産物の安全性を是非アピールしたい。福島産「こしひかり」を食べてみることにする。
 - ①野菜検査、個々の品目ごとに手間をかけ全量検査、頭が下がります。
②米全袋検査、専用の建屋機材整備、個々の農家から日程調整した上、集荷検査返送と、作業能力、輸送態勢など、大変な作業だと思った。
 - 米の全袋検査も含め、放射能検査のために膨大な費用と労力が費やされている。一方日々の生活の中でそれを想像できない自分。佐藤専務の説明で避難解除されても簡単には戻れない現実を知った。また、双葉・大能町には30、40年は戻れないと言われた。福島の困難とそれを想像できない自分、そのギャップ

Q3. 「土湯地熱エネルギー」の視察で、印象に残った事柄・気づき等あればお聞かせ下さい。

- 原発に頼らない！自分たちの地域は自分たちの手で盛り上げる！守る！という方々の想いが形になっていて、とても力強さを感じました。本当にすごいと思いました。
- 原子力に頼らないエネルギーの可能性を見た気がした。地域おこしの側面もあると思うが、関係者の努力がうかがわれる内容であった。私たちは自然エネルギーの活用をもっと追求すべきだと思った。
- 震災後の風評被害から土湯温泉の若旦那衆や地元の人たちが奮起してバイナリー発電に着手したという発想の転換、前向きな姿に私自身が元気づけられた。2時間のツアーではガイドさんの語りも楽しく絶妙で、勉強になったと同時に、自然のパワーでリフレッシュできた。エビの養殖もぜひ成功して、また活気ある温泉街に戻ってほしい。温泉卵、ふかし芋も大変美味しかった。
- 発電施設の見学は、土湯の豊富な地熱資源を最大限に活用していて素晴らしいと思った。福島で再生可能エネルギーを作って頑張っているところ。またその熱でエビの養殖をしていると聞きこれからは楽しみです。
- 震災後風評被害の影響で、宿泊客の減少で旅館が減少し働く場を失った若者が土湯温泉を

去り、地域の高齢化率46%という地域になってしまったことを契機に、豊富にある「温泉」と水源」を活用した再生可能エネルギーを核とする温泉観光地づくりを推進。現在、発電した電力は東北電力に送っており、将来的には旅館や地域住民への電力を供給し「再生可能エネルギーを活用した電力の地産地消」を目指しているそうです。

地熱に限らず、2日目の沿岸では太陽光発電の設置や小名浜では浮体式洋上風力発電の実証研究など原発に頼らない「再生可能エネルギー」への取り組みが各処で行われていました。再稼働の前提となる安全審査で事実上の「合格」が出た柏崎刈羽原子力発電所6、7号機（新潟県）を抱える新潟県も人事ではないと感じました。

- 復興から自立へ向けて勢いを感じました。自然エネルギーを余すところなく活用している前向きな姿勢はとても勉強になりました。
- 土湯温泉の源泉や温泉熱を利用したバイナリー発電所の再生可能エネルギーについて、物の発想や逆境にも負けず、（目の前ではなく、何年か後のスパンで見据える）前向きの姿勢が如何に素晴らしいか、刺激をもらった。原子力に変わる地熱発電に期待を持ちたい。
- 震災と風評被害の影響により危機的状況の中、再生可能エネルギーを核とする温泉観光地づくりの推進は、地域活性化につながり全国的にも参考となる。土湯温泉及び地域住民へ電力供給し「再生可能エネルギーを活用した電力の地産地消」を目指す取り組みとしては素晴らしいの一言、感銘した。
- 温泉地の復興に地域住民が一丸となり、発電事業に取り組む素晴らしさを感じた。土湯発電については全く知らなかったが、全国にも何か所かあることに驚いた。山水荘の方の説明はとてもわかりやすく、試食もよかった。
- 震災を契機とした温泉観光地づくりと、地熱発電のしくみが、現地での素晴らしい説明で楽しく理解できました。また、試食も含めて暖かいおもてなしをしていただき、感動しました。口コミでも広めていきたいと思います。
- 地熱発電は土湯温泉のように良い条件がそろわないと運営が難しく、温泉があるころはどこでもできる状況でないことを知りました。いずれにしても原子力発電は人の力の及ばない発電方法だと思いますので、今後は、太陽光や風力等自然エネルギーの発電を進めていった方が良くあらためて思いました。
- 原子力の利用は急には減らせないが、火山国である日本においては、地熱発電も魅力がある。また、排熱の有効利用への試行錯誤もおもしろい挑戦だと思っている。最後まで、地熱は貴重なエネルギーとして利用するのは、日本人的な発想かと思った。
- 原発事件(事故に非ず、危険運転致死傷罪だ)の大被害大影響風評被害、山間の温泉地も困窮したことであろう。地熱発電良い企画だと思った。余熱利用のエビ養殖事業は、新たな外来生物被害の発生源の恐れがある。既に裏磐梯から、コクチバス、ウチダザリガニの2種が流出繁殖し被害が拡大の一途を辿り、我が新潟県にまで及んでいる。在来固有の日本の生態系が攪乱している。新たな問題は危険でさえある。
- 発電システムの会社がイスラエルで、ボイラーはオーストラリアと聞いた。再エネを国の産業、地域づくりに位置づける政策が必要とされていると思う。

Q4. 「小名浜魚市場」視察で、印象に残った事柄・気づき等あればお聞かせ下さい。

- とてもきれいな施設で、6年経った今、何事もなかったかのように平和で美しいところでした。魚の検査も野菜や果物、お米同様、とても手間のかかる事を実際に見て、消費者である私たちは本当にありがたく感謝していただかなくてはならないと

改めて思いました。

- 海における放射能汚染の影響を心配していたが、残留はわずかになっていることが、関係者の継続的な努力で裏付けられているとわかり、安心した。早く本格操業に戻れることを期待したい。海産物の安全性について自分もこれまであまり情報がなかったので、この点も今後広めていきたい。
- 汚染水がただ漏れになっていた時期もあり、一番心配していたのが魚介類への影響だったので、現状を聞き、検査場を見学できたのは良かった。漁獲量は震災前にはまだまだ及ばないようで心が痛むが、福島は安全・安心だということをもっと国がアピールするべきだと思った。まずは私たちから食べて応援したい。新しい施設もでき、観光客や地元の人との賑わいの場になることを願う。
- 前から気になっていた福島の海産魚介類の検査体制のことが知れてよかった。特に検査のため実際に魚をさばいているところを見られてよかった。
- 「福島の海産魚介類の安全性について」 福島県水産試験場 根本さん
200検体/週で平成29年9月までに194種類 約47,000検体を検査。平成29年合計で98%が不検出。

汚染された餌を与えての飼育試験から、餌からの放射性セシウムの取り込みは大きくないことがわかった。このことは、食物連鎖で上にいる動物ほど汚染が大きいのではないかの仮説は間違いだということ。また、事故直後の高濃度汚染水に触れていない震災後生まれの魚介類はほとんど影響がない（これは汚染水流出が止まったことと、大量の海水で汚染が薄まったことによる）。

◇「福島県における試験操業の取組み」 福島県漁連

福島県漁業の被災状況は、漁船・漁港・養殖施設・共同利用施設（産地市場など）・水産加工施設を合わせて823億63百万円。視察させていただいた被害を受けた小名浜の魚市場も復旧していた。

試験操業は平成26年6月から開始。相馬といわきの各市場に検査機器を設置（相馬8台、いわき9台）。

福島県漁連では自主基準50Bq/kgに設定し、25Bq/kgを超えた場合は水産試験場の検査機器で精密検査を行なう。実際には、ほとんどが不検出（25Bq/kg超は6例のみで試験操業を始めた当初とのこと）。現在は、原発10km海域以外で操業。

<本格操業に向けた課題>

1. 震災前の8%しかない漁獲量の拡大
2. 流通体制の再構築
3. 風評対策

農産品同様に改めて福島の水産物は、たくさんの対策・検査を経て販売されていることを確認できました。自分も安心して購入したいと思っし、役職員・組合員へも伝えて生きたいと思っします。

- 小名浜魚市場でも、水揚げされた膨大な数の魚種の汚染確認する部位まで指定されていたことにとっても驚いた。かたちだけの取り組みでなく、真剣に向き合う対応に頭が下がったし福島の抱えている問題の深さを痛感しました。
- 潮日の海の恩恵を受け、約200種にもものぼる多彩な魚介類が水揚げされた場所であり、被害状況もさることながら、復旧には漁業者の努力そして検査により、どこよりも安全な魚類であることが、証明されている。
- 毎週200検体、これまでに約4万7千検体、194種類の海産魚介類を検査して安全性を確認している。原発事故から6年経過し。海産魚介類のモニタリング検査結果は98%が不検

出となっていることから、安全性は確保できていると思う。

- 朝から1日中、福島で水揚げされた魚は検査され、どこよりも安全な魚が出荷されていると感じた。また、市場2階の震災直後の避難所の実際の様子展示があった。自由やプライバシーが奪われる生活はリアルだった。
- 以前、訪問した時から比べると、出荷制限の魚種数が減少し、試験操業の対象魚種が増加、新しい検査機器も入って、復旧に向けて進んでいる様子が印象に残りました。福島の魚の安全性についても、もっと県外の消費者は知る必要があると思いますし、知らせていきたいと思います。
- 震災後の漁獲量が震災前の8%と、6年経った今でも影響が思ったより大きいのに驚きました。説明をしてくださった方の前向きな取り組みには頭が下がる思いでした。
- 6年を経過し試験操業で漸く97種に辿り着いた。水揚げしても直ぐに出荷することが叶わず、ミンチにして線量検査の判定を受けないうちはどうにも出来ない。気の遠くなるような作業の繰返し、腹立たしい限りだろう。

Q5.全体の運営について、内容・日程・時間等で、ご意見などございましたらお聞かせ下さい。

- やはり、海側、福島第一原発周辺まで行けたことはとてもよかったです。大量の除染土の袋の山を見て、6年経った今も何も問題は解決していない。どうしたら良いのかと途方にくれる思いでした。でも、目をそむけてはいけない現実であり、福島の方たちはこの現実と懸命に向き合ってきたのだと思います。これは、今を生きる私たちみんながしっかりと自分の目で見て向き合わなければいけないことなのだと感じました。
- 昨年と違う取り組みを学ぶことができ良かった。なお、スケジュールが大きく遅れてしまい、遠方からの参加者は負担が大きかったと思うので、善処願いたい。
- 季節も良く、内容も盛りだくさんで大変勉強になった。帰りがもう少し早いとありがたい。お楽しみも大事だが、今後も慰安旅行的にはならないようにしていただきたいと思う。清水事務局長はじめ、道中説明をしてくださった福島県連の佐藤専務、JAの方々に感謝します。
- 効率よく移動のバスの中で被災地生協の努力や状況をDVD上映で知ることができたこと、佐藤専務からは視察の他にバスの中でも冊子に基づきお話ししていただき福島の現状について様々な角度から学ぶことが出来ました。本当にありがとうございました。
- とても効率の良い内容だったと思います。福島の抱える問題を悲観的に受け取るよりも、「共に乗り越えなくては」という再認識が出来たことが、行ったからこそなのだ実感しました。数々のお計らいありがとうございました。
- 東京電力福島第一原発付近（車窓）ではありましたが、『帰還困難区域』には、胸に刺さるものがありました。次回もこのコースは、必ず視てほしいと思います。放射生物質検査が、ここまで行われていることを知らなかったし、他人事ととらえずに、風評問題しかり、自分だったらどうするかと言う視点を持つ事が出来ました。
- 土湯地熱エネルギーの視察ができよかった。内容については満足している。バスの中での移動時間に佐藤専務の貴重な話が聞けてよかったし、時間の有効活用ができてよかった。
- きめ細やかに対応いただき、ありがとうございました。また、バスの中での福島県連 佐藤専務の説明、解説で各地の状況がよくわかった。
- 参加させていただき、本当にありがとうございました。福島県連 佐藤専務様のお話と資料、吉川会長の懇親会でもお話など、貴重な情報をたくさんいただきました。県連会員の

皆様と、宿や道中で交流できたことも、ありがたかったです。時間的にも無理のない企画で、バランスよく視察させていただきました。新潟県連の皆さまに、重ねてお礼申し上げます。

- 事務局の手配ご苦労様でした。無事行ってこられました事に感謝申し上げます。放射線の検査体制など新たな現状がわかりましたし、ゴーストタウン化した市街地の一刻も早い復興を願うところです。私共の幸せを感じつつ、幾ばくかの支援協力を行っていきます。
- 十分配慮の行き届いた運営であった。
- 佐藤専務の説明は素晴らしかった。「福島のことを忘れないで下さい」「忘れないことは、たたかいかでもあります」の言葉が印象に残った。
- 夜の交流会の時に『カラオケが無くて・・・』という話がありましたが、遊びで来ているわけではないので『カラオケ』は必要ありません。
- 宿泊地での交流会会場は、皆さんの顔が見えるコの字の配列にお願いしたい。

Q6.今後の「被災地支援活動」について、ご意見・要望などございましたらお書きください。

- 「忘れない…」これが何より大切だと思います。へんな言い方かも知れないが津波、地震だけなら、故郷まで奪われてしまう事はなかったのではないか。原発さえなければ苦しみはまだ少なくて済んだのではないか。そう思わずにはいられなかった。これから生きていく私たちは決して福島を忘れてはいけなくと強く心に思いました。
- 現地のさまざまな取り組みを取り上げながら、継続することを希望します。
- 福島の方たちの苦しみを「忘れない」ためにも、今後も視察交流は続けてほしいと思う。同じ原発を持つ隣県なので、福島県産のものをまずは生協から扱い、購入できるといいと思う。
- 土湯地熱エネルギーのような再生可能エネルギーの施設があったら見学したい。
- 一人ではなかなか受け止め切れない、現地のご苦労や現実を改めて目の当たりにしました。今後もより多くの方に継続して現地を視察していただき、現地を知る人をさらに広げて見て聴いてきた事を発信し、「忘れない」「伝える」「続ける」「つなげる」この4つを合言葉に被災地の気持ちに寄り添いながら支援を続けていけたらと思います。
各会員生協での取り組みに加え、県連としてできることから福島をはじめとする東北の復興に少しでも貢献できたらと思いました。
- 現地に行かなくても支援は可能ですが、行ける機会があれば行った方がいいと感じました。行ったからこそ、思いを共有できて持続的な支援活動に繋がると感じます。
- 富岡町仮設減容化施設や双葉警察署殉難パトカーの視察は絶対に伝えていかなければいけないと思いました。被災者の話をまずはひたすら聞く、聞いたらそれを消化して自分の言葉で他の人に伝えられるようにする。偏見と共感～について。福島県生協連佐藤専務理事より『福島の現状』東日本・津波・原発事故大震災から6年半は、素晴らしい内容の冊子です。事前に勉強出来たら、もっと深く理解する手助けになったような気がしました。
*貴重な体験をさせてもらい、ありがとうございました。
- 被災地支援活動については、継続した活動が必要と感じる。現地の生協、生産者との交流ができるといいかな。
- このような視察は、個人的には行けないようなところまで行くことができ、また、時を経ても、まだまだ復興していない被災地の現状を学ぶことができた。このような支援活

動は今後も続けてほしい。

- 当生協では具体的な被災地支援活動が中々できないですが、まずは今回研修に行ったことを機関紙を通して組合員へ福島の現状をお伝えしていきたいです。
- 当面は、お金の支援と現状を伝え支援を募ることでしょうか。
- 一次産業就労者、二次三次産業の関係者の生の声も聴いて見たい。また強制避難区域の規制解除、住民復帰事情などにも触れて見てはいかがか？
- 忘れないために継続する事、再エネ普及にむけ、がんばりましょう。